

安倍総理の所信表明演説を「高齢者参加」で読む

所信表明演説は2013年1月28日。代表質問は1月30日～2月1日

堀内正範 朝日新聞社社友 web「月刊丈風」編集人

世界一の長寿国なのに、内閣総理大臣はどうしてこうも短命なのでしょう。

2006年からの7年に7人目。安倍晋三さんから安倍晋三さんまで。内閣の成立時にそう決めているわけではないのに、決まってそういうプロセスをたどっています。

「未萌にして睹(み)る」立場から結論をいいますと、いまの制度のもとで内閣総理大臣を長命にする法は、「高齢者参加」によって「日本高齢社会」をつくる以外に見当たりません。「青少年」「中年者」そして新たに「高年者」が相応に参加して、「日本長寿社会＝高齢社会＝三世代多重社会」をめざすことによって、「経済全体のパイ」が確保でき、これまでとは次元の違う大胆な政策パッケージが可能となり、内閣総理大臣は「4年のお短し」という任期の長命を得ることになります。逆にいえば新世紀10年このかた、「高齢者(現役シニア)参加」による経済社会対策の不在あるいは延滞が「経済パイ」のミニ化、「短命総理」の要因ということになります。

「三本の矢(金融・財政・成長戦略)」を同時に放つ政策「アベノミクス」による円安・株高の効果とはなんのでしょうか。

かつてない「天災人禍」に出会いながらも沈着に対応し、その間もアジア途上諸国の近代化のために技術・人材・資金を投じて尽力している日本国民に対する信頼とねぎらいと期待とをブレンドした国際的な表敬評価なのです。それは先の大戦の戦禍から立ち上がり、貧・富をともに分け合いながら営々として働き、半世紀余にわたる平和を堅持してきた近代国家としての成功モデル「日本」に対しての賛意なのです。政権の長命は、この本筋を逸脱する政策では国際的同意を得られないことを知るべきでしょう。わが身に引きつけていえば、高齢者として保持する潜在力への期待を改めて自覚する時でもあります。

国民の潜在力には、若者による「成長」活力とともに、高齢者(65歳以上・23・3%)の保持する「成熟・継承」活力があります。この10年余は、「世代交代」による若年層の「成長」活力だけが強調されてきました。その間、3000万人に達した高齢者の「成熟・継承」活力は“善意”によって軽視・黙止され、経済成長のパイの外に置き去りにされてきたのです。高齢者層による新たな投資と優れた国(地)産品・サービスに対する持続的な生産と消費の拡大が成長戦略の要なのです。

史上に新たなそして国際的に成功モデルとなる「日本長寿社会＝高齢社会＝三世代多重社会」をつくるには、高齢者が保持している「知識・技術・経験・人脈・健康・資産」を活かして各地域・各職域で進める「モノ・居場所・しくみ」づくりが要請されますが、その備えは十分にあるといえます。あとは「青少年」「中年者」とともに「高年の現役シニア」が新たな経済社会を創出するために社会参加するよう、国政の側からの呼びかけが待たれます。

安倍総理の所信表明演説には残念ながら「高齢者参加」についての発言はありませんでした。以下は、「高齢者参加」の視点による安倍所信表明演説の読み込みです。(*)のような意識が表明されてはじめて「高齢者参加」への呼びかけとなり、「支える高齢者」にいざ出動の意欲が生まれるのです。(2013・2・2～2・10記)

- ・(社会活動に意欲のある高齢者が参画する) 持続的な経済成長を通じて(新たな) 富を生み出すことができなければ「経済全体のパイ」は縮んでいってしまいます。
- ・(高齢者層のみなさんの参画をえて)これまでとは次元の違う(成長・成熟・継承の) 大胆な政策パッケージを提示します。
- ・大胆な金融政策、機動的な財政政策、そして(とくに高齢者層による積極的な) 民間投資を喚起する成長戦略という「3本の矢」
- ・「(青少年・中年者・高年者すべての世代の人びとの) 暮らしの安心・(高齢者のもつ知識・技術・経験・資産の参画による) 地域活性化」
- ・(とくに高齢者層による積極的な) 民間の投資と(増えつづける高齢者層の優れた国産品・地産品・サービスによる) 消費が持続的に拡大する成長戦略
- ・「(生まれたばかりの子ども・育つ世代、生み育てる世代、生をいとおしむ世代のすべての国民が) 健康で長生きできる社会」
- ・(これまでの歴史になかった) 新たな富と雇用も生み出します。
- ・「(ライフ・) イノベーション」(<生から死までの人間存在にかかわる>技術革新) と「(三世代多重型社会) への) 制度改革
- ・「(人生90年時代) の) 未知の領域に果敢に挑戦をしていく精神
- ・今こそ、(国際的に先行する「高齢社会」の形成で) 世界一を目指していこう
- ・若者もお年寄り(注：ここだけ発言。弱者の視点で) も、年齢や障害の有無にかかわらず、全ての人々が生きがいを感じ、何度でもチャンスを与えられる社会。
- ・「(一人ひとりが生涯にわたって) 自らの力で成長(・成熟・継承) していこう」という気概を失ってしまったら、個人も、国家も、明るい将来を切り開くことはできません。
- ・(高齢者が) 自らの中に眠っている新しい力を見いだして、これからも成長(・成熟・継承) していくこと。
- ・「強い日本」を創るのは、他の誰でもありません。私たち自身(青少年・中年者・高年者層のすべての国民の積極的な参加) です。